

# 中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所  
地域教育支援スタッフ

no  
**3**

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

## 昭和町社会教育委員 コミュニティ・スクール訪問(押原小学校)



本年度昭和町では全ての公立小中学校がコミュニティ・スクールとして指定されました。

その中でも、押原小学校は県内2校目のコミュニティ・スクールとして、地域に開かれた学校づくりを積極的に推進しています。地域への広報も盛んで、太田充校長は「コミュニティ・スクール(CS)だより」として、各学年や教務は「CS通信」として、全校や学年の活動、地域や保護者と連携した活動を盛んに発信し、また活動への参画を広く呼びかけています。

この広報には「コミュニティ・スクールは、地域の公立学校の運営に、地域のみなさんの声を活かす仕組みです。学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールといいます。学校運営協議会は、学校や地域をよりよくするために、地域のみなさんからあがった声をもとに、学校運営、教育活動について話し合う場です」(CS通信4.15より)と説明されています。

学校運営協議会の委員には社会教育委員も地域組織の代表として1名参加しています。

7月13日には、「昭和町社会教育委員学校訪問」が行われました。町の教育委員会山本靖副主幹とこの日参加した13名の委員は、太田校長の案内で、5校時の授業参観と校内施設の見学を行いました。

押原小学校は平成16年、押原の杜と連続し学校全

体を公園化し、環境に優しいエコスクールとして改築されました。施設は12年目を迎える今も全国から見学者が訪れます。子どもたちも誇りをもち丁寧に使っていて有効に機能しています。

この日は猛暑日でしたが、エアコンと空気対流を組み合わせた環境のなか、子どもたちは活発に学習活動をすすめていました。

委員さんの多くが地元の卒業生で、太田校長の丁寧な説明を受け、当時の校舎と比較したり、子どもの様子に目を細めたりしていました。

そのあと、パワーポイントで年間の取り組みが紹介されました。

押原小学校ではコミュニティ・スクール推進事業として、ロビーの一角を活用し地域の方(プロ・アマ問わず)の作品展示をする「スクールギャラリー」や、広く地域の方に募集する「給食試食会」「クリーン活動」などがあります。

地域・保護者の皆様に支えられ押原小学校は、2014年にコミュニティ・スクールとしてスタートしました

押原小学校  
No. 2  
平成27年5月20日  
校長 太田 充

「平成27年度 修学旅行テーマ」

**学ぶ 楽しむ 自主的に 押原小の代表として**  
— 取り組みの成果を存分に発揮し、無事終える —

台風が心配されたゴールデンウィーク明けの5月13日(水)～15日(金)、2泊3日で修学旅行を行いました。幸い天気にも恵まれ、すべて計画通り行うことができました。古都鎌倉、国の最高立法機関の国会議事堂、郷土出身の内藤多仲設計の東京タワー、臨海副都心の東京みまもと水上バス、たくさんのお土産が買えるキッザニアなどの見学、体験、学習を通して、たくさんのお土産をいただきました。2泊3日の修学旅行ですが、準備段階を含めると4年生からの長い期間の取り組みでした。6年生はこの取り組みを通して、はかり知れないたくさんのことを学びました。生涯忘れることのできない貴重な体験と思い出もたくさん作ることができました。修学旅行を終えた子どもたちは、ひとまわり大きく成長したようにも見えます。保護者の皆様方のご協力により感謝いたします。これから6年生は、修学旅行記づくりに精を出し頑張ります。

**「コミュニティ・スクール」2年目**  
**地域力、地域人財を学校に!**

押原小学校はコミュニティ・スクール2年目となりました。昨年度は多くの保護者、地域の方々のご協力により大きな成果をおさめることができました。ご協力に心より感謝いたします。コミュニティ・スクールとは、地域と学校が一体となり、子どもの健やかな成長と教育の向上をめざすとともに、よりよい地域の教育環境を創造しようとするものです。学校・家庭・地域が一体とならなければ、教育の効果を高めることはできません。今年も子どもたちの健全育成、教育のために保護者、地域の方々のご協力をよろしくお願いいたします。下記の項目はボランティアの一例です。

- 花や野菜、米づくり
- カブトムシやメダカ、ホテルの飼育
- 楽器演奏や合唱の指導
- 登下校時の通学路の安全指導
- ミシンや裁縫、調理実習の補助など、これら以外にも、ご協力いただけるものがございましたら、お気軽にご連絡ください。
- 木工や金属加工などの図画工作やクラブ活動の補助
- 町の昔の暮らしや歴史、民話
- 学校樹木や押原の杜の植木の手入れ
- 校外学習の付き添い、補助

(押原小学校 電話 275-2053)

また、登下校の安全指導を行う「押杜っ子を守る会」をはじめ、花や野菜、米作り、クラブ活動や音楽指導、読み聞かせや地域の民話や歴史など、地域や保護者の方を積極的に講師や補助にお迎えし、学校・地域・保護者が一体となった学校運営を行っています。

太田校長は「地域が良くなると学校が良くなる、学校が良くなると地域が良くなる。学校と地域にウインウインの互惠関係を大切に取り組んでいます」とスライドを説明しながら話しました。

委員の小澤久生氏は「良い施設を利用し、幅広い教育活動がおこなわれていました。校長先生の＜地域が学校をつくり、学校が地域をつくる＞という考えがよくわかりました」と感想を述べました。



### 総合教育センター 特別研修会

#### 「学力格差の克服と学力の向上 - 学校・家庭・地域の役割 - 」

お茶の水女子大学 基幹研究院・人間科学系 教授 浜野 隆 氏

平成27年6月16日に総合教育センター特別研修において、上記講演が行われました。以下は、その抜粋です。

#### 1 はじめに

「平成25年度全国学力・学習状況調査」について、全国の学校を抽出し(小学校429校、中学校410校)、保護者にきめの細かい調査を実施、生徒データとの接合を行った。調査内容は、子どもへの接し方、子どもの教育に対する考え方、教育費、そして**家庭の社会的背景 (SES:Socio-Economic Status:保護者の学歴と世帯年収の合成指標)**であった。

#### 2 学力格差の実態(調査の結果わかったこと)

- 1)収入だけではなく、親の学歴・家庭の学校外教育支出も学力に強い影響を持つ。
- 2)小学生の方が中学生よりもSESに影響を受ける
- 3)SES最低群に所属する高努力生徒(学習時間3h)はSES最高群に所属する低努力生徒(学習時間0h)に成績で勝てない。

#### 3 学力格差の問題点(なぜ格差はいけないのか)

- 1)教育基本法の理念に反する
- 2)日本社会が住みにくいものと化す  
勝ち組 - 負け組を固定すると強者が弱者を踏み台にし、差別を容認する社会ができあがる。

#### 4 学校にできること

(SES予想を上回る**教育効果の高い学校の研究**)

充実した家庭学習指導

自主学習を単にやらせるだけでなく、教師がコメントを書き、フィードバックしている。励ましにより学

習習慣が定着するように継続して指導している。「教員の負担感？」- この指導が当たり前だと認識。手が足りない和管理職が手伝う。

言語に関する授業規律や学習規律の徹底

ノートが見やすくきれい、文字を丁寧に書いている、教師が「授業のめあて」を板書しノートに写させている、書かせる指導、円滑に行われる話し合い活動、掲示物等の教室整備、教師とのよりよい人間関係により発話しやすい環境づくり。

基礎基本の定着の重視

上記を実効性のあるものとする条件

#### 1)少人数指導/少人数学級

(管理職,SSW,学校応援団による分業)

#### 2)管理職のリーダーシップ・同僚性の構築・実践的な教員研修

・相互授業参観は同僚性の構築に役立つ

・教員の指導計画書に管理職がコメントを書きフィードバックを行う

#### (3)小 - 中 - 高の連携の重視

・イベントではなく日常的な交流であること。

・教室ルールの共有(めあての板書など)

#### (4)学力調査テストの結果を自校の課題を知るためのひとつの機会として理解し利用している

## 5 家庭ではあたりまえのことをする

(SES予想を上回る家庭の研究から)

- 1) 基本的な生活習慣が確立している  
朝食を食べ、同じ時間に起床・就寝、テレビを見過ぎない
- 2) 読み聞かせをしている
- 3) 保護者が学校の行事に良く参加している

## 6 地域社会ができること

- 1) 学力格差は「つながり格差」である
- 2) 地域・保護者はボランティアで学校へ
- 3) 子どもたちは地域の行事に参加する

## 7 学力をつけて大学生になった人々を見て感じること

- 1) 学力よりも「生きる力」の方が必要
- 2) 「学び」への興味の不足
- 3) 人間関係を築く力の弱さ

## 8 「生きる力」を育むために

- 1) 多様な人間関係を持てる様な機会を意図的に作り、人間関係力を高める
- 2) 教師、親も学ぶ楽しさを持つ、関心を引き出す、学

ぶ意味を子どもと一緒に考える

- 3) 子どもが自尊感情を持てるような機会の提供とそのような場への参加の促進
- 4) 共有型のしつけを通して親子の間に信頼関係を築く

## 9 高学力国に共通する心理的要素(文化)

- 1) 厳格さ(ルールを守ること)に信念を持っている
- 2) 「学校は生徒が複雑な学科内容を学ぶ手助けをするためにある」という共通理解
- 3) 生徒・家庭が持つ学ぶことへの「情熱」

## 10 これから必要とされる「学力」とは

- 1) OECD - PISA: 協調型問題解決能力  
多様な人たちと協働して問題解決に当たる能力

全文は以下にて公表されています

平成25年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

[http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukou/](http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukou/kannren_chousa/pdf/hogosha_factorial_experiment.pdf)

[kannren\\_chousa/pdf/hogosha\\_factorial\\_experiment.pdf](http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukou/kannren_chousa/pdf/hogosha_factorial_experiment.pdf)

## 山梨県生涯学習推進センター 「しごと講座」 「医師のしごと」

山梨市立牧丘病院医師 / ハイチ友の会代表 小澤 幸子 氏

山梨県生涯学習推進センターでは、小中学生と保護者を対象に、ひとつの職業を取り上げて具体的に紹介する講座を開催しています。7月25日には「医師のしごと」と題して、牧丘病院で内科医として地域医療に従事しつつ、カリブ海にあるハイチ共和国でNGOの活動をされている小澤先生に、職業を選んだきっかけや、どんな仕事をしているのか講演をいただきました。

### 1 医師になったわけ

山梨で小・中・高校生活を送り、何となく息苦しさを感  
じ、東京の大学の文学部に進学した。

大学生活では、何か活動的なことをしたいと思っていた。18歳の時、北海道南西沖地震の災害ボランティアとして奥尻島へ行った。行くまでは正直なところ、正義感3割、好奇心7割だった。しかし、土砂崩れの下にはまだ人が埋まっているという現実を目の当たりにして、何かが変わった。同時に、現場に行ってみなければ実感がわからなかった自分が恥ずかしかった。

20歳の時、ハイチの難民支援に渡った。『臭いつきの現実』に直面し、「ハイチ友の会」を作って活動を始めた。大学3年で就職活動を始めたとき、「世の中の不平等を減らすことを仕事にしたい。」と思うようになっ

た。しかし、就職先の仕事は、やりたいことばかりではなかった。



そんな折、母が入院し、日本とハイチの病院の差に驚いた。ハイチの医療を何とかしたいと思う一方で「誰かが助けてくれば良いのに。」から「気づいた人が助ければ良い。」と思うようになり、自分自身が医者になることを志し、一浪して山梨医大(当時)に進学した。

## 2 「世界中どこでも通用する医者になりたい」

・五感を研ぎ澄ます

「どんなところでも、どんな人や病気でも治したい」と考えると、CTやMRIの様な最新機器がいつも使えるとは限らない。聴診器を使う技術など、自分の五感を使った診断がとても重要になってくる。

・「もし誰かに何かを伝えたかったら、演説でなく演劇をしろ。」

これは、インターンをした佐久総合病院の若月院長の教えである。ハイチでは紙芝居を使って衛生概念を現地の人々に伝えた。また、後に絵本を作り、子どもたちの教育に役立てている。

## 3 不安を喜びに変えたもの

医師の仕事は、やりがいや尊敬を得られる反面、命を扱う怖さといった不安もつきまとう。

小脳梗塞のKさんを担当したとき、胃ろうを作るのを避けようと、看護師、理学療法士など病院の全スタッフに教を請うて全体的な治療を行った。ことばのりハビリの最中に「私は誰ですか?」と尋ねたら、「・・・オレの好きな人。」と答えが返ってきた。この時の喜びが何より

忘れられない。

## 4 現在

山梨市立牧丘病院に勤務している。患者のためになるなら、どんなことでもやって良いという雰囲気を持った職場で、働きがいを感じている。

ハイチ地震(2010)の折には、日赤の援助隊の一員として現地に行き活動した。現地スタッフと協働体制がとれたことが嬉しかった。

## 5 大切なこと

病気だけでなく人間を見ること、  
患者だけでなく家族を見ること、  
個人だけでなく地域を見ること、  
地域だけでなく国家を見ること、  
日本だけでなく世界を見ること

「今できることを精一杯頑張ることが未来へ続く第一歩。」だと思う。



ハイチでの活動については「ハイチ友の会」で検索してください。

## 峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

## 地域教育フォーラムを開催します

期日：平成27年10月28日(水)

14:00～16:30

会場：日本航空学園 J-shipホール

### 日程

受付	13:30	～	14:00
アトラクション	13:45	～	13:55
開会行事	14:00	～	14:10
報告	14:15	～	14:40
	休憩	10分	
講演	14:50	～	16:20
閉会行事	16:20	～	16:30

報告 14:15～14:40

テーマ「地域・保護者と連携した防災教育の実際」  
発表者

南アルプス市立若草南小学校教頭 澤登一浩 氏

講演 14:50～16:20

テーマ「防災教育 - 家庭・学校・地域の連携 -」  
講師

山梨大学地域防災マネジメント研究センター  
准教授 秦 康範 氏

平成27年度 『中北.com』 3

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援担当  
飯田 野崎

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/>

お詫び:中北.com No.2におきまして、韮崎市教育長「矢巻氏」を「八巻」と誤植した版が一部ありました。お詫びすると共に訂正させていただきます。